

【小学校・理科】

平成 30 年度の重点

1 指導計画及び評価計画の工夫・改善

- 指導計画の作成に当たっては、自然の事物・現象を対象として観察、実験や自然体験、科学的な体験を充実させる工夫とともに、科学的な知識や概念が定着するように、児童の思考に沿った単元を構成したり、児童が見通しをもって観察、実験を計画したりするなど、児童一人ひとりが意欲的に学習できるよう工夫・改善に努める。
- 児童が主体的に学習活動に取り組むことができるよう、体験的な学習や問題解決の活動を指導計画に適切に位置付けるとともに、地域の特色を生かし、生活科などの他教科との関連を図ったり、日常生活と関係付けたりしながら実感を伴った理解を図れるよう工夫・改善に努める。
- 評価計画の作成に当たっては、指導と評価の一体化を図り、4つの観点別に具体的な評価規準を設定するとともに、適切な評価がなされるよう工夫・改善に努める。

2 指導方法及び評価方法の工夫・改善

- 児童の疑問や児童自らが考えた観察、実験の方法等を大切にし、問題解決の能力が育成されるようにするとともに、ものづくりを取り入れるなど、学ぶことの楽しさや成就感を体得できるような指導方法の工夫・改善に努める。
- 科学的な見方や考え方が深められるように、学習前の児童の見方や考え方を把握して指導に生かすとともに、予想や考察の段階で話し合い等を通して学び合う場面を設けるなど、単元構成の工夫・改善に努める。
- 野外観察、環境教育の視点を取り入れた指導、博物館等の施設やコンピュータ等の機器を活用した指導方法の工夫・改善に努める。
- 児童の学習状況を適切な場で多面的に把握し、評価の結果を児童のよさや可能性を生かす指導に役立てるとともに、個に応じた評価方法の工夫・改善に努める。

3 安全への配慮

- 実験器具等の操作や薬品の管理、取扱い、処理などに十分注意を払うとともに、状況に応じて保護眼鏡を着用させるなど事故防止に努める。
- 野外での学習については、事前に現地調査を行うとともに適切な事前指導を行うなど、安全への配慮を十分に行う。

4 指導における留意点

- 図や表、グラフなどを用いてデータを整理したり、それらを用い科学的な言葉や概念を使用して考えたり説明したりするなどの学習活動を充実し、科学的な思考力や表現力の育成を図る。
- 体験活動を通して自然を愛する心情を育成し、生命を尊重する態度や自然環境を大切にすることを育成する。また、見通しをもって観察、実験を行ったり、問題解決の能力を育て、科学的な見方や考え方を養ったりすることを通して、道徳的判断力や真理を大切にしようとする態度を育成する。
- 道徳教育については、道徳教育の目標に基づき、道徳科などとの関連、指導の内容及び時期等に配慮し、相互に効果を高め合えるように年間指導計画の作成を行う。

参考

◆ 県教育委員会ホームページ

- 評価資料集Ⅲ－評価活動の参考資料として－小学校

<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/cnt/f6679/documents/363881.pdf>

- 教育課程編成の指針（幼稚園，小学校，中学校）小学校理科（平成 22 年作成）

<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/cnt/f6668/index.html>

- 教育課程編成の指針（幼稚園，小学校，中学校）小学校理科（平成 30 年作成）

<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/kyouikukateisisinn.html>

◆ 文部科学省ホームページ

- 移行措置関連資料

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1387780.htm